

刊夕日九十月二十



定額一冊五錢... 廣告料五錢... 印刷所 常警常日新聞社

陣中想出話 (七)

平町出身 步兵第九聯隊 水野重光 第三中隊

或る日の偵察 (2)

其の後は彼は左の方にある高地を通り歸路を選んだが、どうした事か道路を失なつてしまつた、そこで部落民を案内に近道を選んで林の中に入つたが方向が變だ、おかしな事と思つて良く尋ねて見ると話が不明瞭でさつぱり解らない、そこで案内を断はすに獨斷で目標を定めて歸り路を急いだアセレバあせる程道が解らない、ジメ／＼と降り出した雨は歩行を困難ならしめた、こんな狭い路に俺れと同じ方向に走つた馬蹄が澤山ある、然も新しいのだ、近の農馬にしては變だなアと氣にしながら山と山の狭い谷間の一本道を駆る程にして進んだ、フト前方にガヤ／＼と言ふ支那人の話しに立止つて見ると一列に並んだ支那兵同じ坂道を登つて来るではないか、良く見ると銃を持った正規軍だ、兵力三、四十名、後の方には大きな二人用の鋸や斧、大圓などと言ふ破壊班らしいものあり同勢およそ五六〇位だらう、俺達の居るのも氣付かずに来るのだ、

幸にも道路が一寸曲つて居るが彼等とは三十米とは離れて居ない、匪賊だ、ズツト後からも大分くるらしい



魚類は頭を容の左方に腹を向けて出します、二尾の場合には、魚の頭を容の左方に腹合せにします

馬の嘶きが聞える最う逃げ様としても駄目らしい、ヨシ如何ならうとも奴の機先を制するに然かずと考へたので部下の二名を右に散開せしめ戦準備の任務をさづけ通譯二名は左に置いて案内の支那人二名の監視を命じた。先づ手榴弾を投げ

二明日の献立

【朝】すまし汁—高野とうふ—ゆば
【晝】白みそあへ—かきみそあへ
【晩】煎鳥—鶏内—はす—うど

付けて行動を開始すべく待つたが三分四分と過つたが目前に來ない、不思議に思つて前に出て見ると今迄山が折曲つて居るので見えなかつたが蔭に家が一軒あつたのだ、そこで奴等休んで居る頂度〇時五分だ、晝食でも取るらしい、これた今

常警歌壇

芳野いさを



の内に氣付かれぬ様別な道を通つて突抜け様と思つたので日本人二名を先にして反對の方に動き出した、バーン一發飛んで來た、さては發見されたかと思つたのも寸時續いてドドドドドドドと來た、此の時は已に遅かつた、知らぬ間に騎馬兵らしい奴等がスグ右の山を占領して中腹まで降りて來て撃ち出されたのだ。

開業廣告

外科 醫學博士 渡部 義夫
内科 醫學博士 渡部 義夫
小兒科 醫學博士 渡部 義夫
女醫 渡部 さい子

入院應需 渡部 外科

イヤ！君！

いゝ冬服を求めたね 断然三二年型だよ

いやコレカネ！ 例の...「ソレ」

正札堂さ



六三四電通場車停目丁四町平

◇又々ウチワ豫約期が來ました◇

明年のウチワ。扇子は諸掛のかゝる外來品より、注文に追加に萬事便利にて、製品及價格に自信のある山久へ！是非一度御用命を...

山久團扇店 前局町屋紺平 番九〇四(呼)話電 庫在富豐器子硝壺子菓

◇平乙女の腕で出來上る町産品◇

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温器
マ ス 寒暖計
ハカリ

秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

關内藥局 電話四〇番

漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました

絶好無二の御買時 在庫品見越買附品豊富
◇平素ノ御引立ヲ衷心ヨリ感謝シ
◇大奉仕精神ヲ徹底セシムベク
◇在庫品全部ノ販賣ノ一大奉仕
お正月の御用意お屠蘇具が 種々入荷致しました。 専門漆器平町に只一軒の...

共 漆器店 各國産漆器専門卸小賣 平町三丁目36元郵便局 店員募集 十二三才... 小外員 優遇す

外科

門專 X 科線光

上田外科病院

平町南町 電話一二九番

家庭温泉御案内

日本一の靈湯草津の元泉に化學的操作を加へたる 草津 温泉湯の素 家庭風呂に外用に！ 心地よく温まり絶対に湯冷めせず湯上り氣分價千金一家揃つて居ながらにして温泉氣分を味へ其上 一切の難病を征服する靈湯なり。 冷性の方、しもやけ、火傷、外傷、婦人病、痔 疾、神經痛、リウマチス、皮膚病、 其他一般消毒用として特効あり。

定價 一〇〇瓦入 凡 五日分 五十錢
二五〇瓦入 凡 十二日分 一〇〇圓
六〇〇瓦入 凡 三十日分 二〇〇圓

其他浴場用旅館用大徳用あり、試用分無代進呈 いたします。 煙突掃除薬も販賣致します。 石炭の御用命と共に是非御使用を御奨めいたします 海岸線 石炭商 伊藤軍二商店 代理店 平町一丁目電話三四九番 販賣元草津温泉研究所營業部 特約販賣募集 各町村一ヶ所に限る御申越あれ 特に御相談に應ず。

月曜是非

入學の準備教育

學童達の大厄介たる試験地獄は年の瀬と共に接近し来る、各小學校は七級學校入學志望兒童の爲めに準備教育を開始した、甚々しい事には細々としたロソク火をたよりに、午後五時半から六時頃の遅くまで火の氣のない冷い教室で準備教育を二無二語め込んで居る、其上一週間一度の安息日たる日曜までも犠牲に供せられて、發育盛りの兒童達の顔は陰慘にゆがめられて朝かさは全く奪はれ盡して仕舞つてゐる。

擔仕の先生の御苦勞は云ふ迄もなく、伸び様とする兒童達の心身に對する痛手は甚だ憂慮に耐えぬもの、多い事を思ふ時誠に慄然たらざるを得ない。

何んとかして可憐な兒童達を此の苦難から救出する譯には行かないか、學校教育は終局的目的は心身の完成にある、然るに上級の校門をくぐらなれば爲めに兒童の心身に耐えられぬ負擔を荷はしめ、その結果大事な時代の明るさを棒に振らしめて、何處に心身完成の満足があるか。

日頃の成績の優良な兒童は大部分入學の可能性があると見て差支へない、ただ志願者の内の何割かの水平線以下が準備の如何に依つて及落の分岐点に立つて居るのである。故に準備教育なるものは、少數の者の爲めに多數が犠牲となつて、其の苦勞を共に嘗め、心身の上にも多大の損傷を受けて居る事となる。

平常の學力の優劣及落の運命に問はるゝ事となり、學校も家庭も平常の教育により以上力を傾注する事となれば兒童達に殊更ら季節的不平均な負擔を與へず済む結果となる。

ある種の

條件を前提に

炭礦側十萬圓寄附

小名濱築港寄附減額陳情

既報—小名濱町から商港築港地元二十三萬五千圓中約二十萬圓の寄附援助を要請された磐城、入山、古河の常磐三大炭礦では其の後極秘裡に、三社協議會を開いて該申込の對策を協議中であつたが結局或る種の條件を附して要請の半額十萬圓の寄附に應ずる事と決定此程小名濱町に回答された尙三大炭礦の寄附條件は不明だが炭礦側は縣當局と寄附の正式交渉の際明示せんとし居り鈴木町長は十七日急務町會を召集して、炭礦側の回

答を報告今後の對策を協議の結果町寄附金五萬圓、炭礦側十萬圓合計十五萬圓に寄附金減額を陳情する事と決定鈴木町長町會代表小野晋平兩氏は十八日出願した

修繕の済まぬ

漁船が出動

イワシ來群の飛報に

一萬貫水揚げ

女子の

使命を

明日の女青總會

去る拾七日磐城丸より鰯魚群發見の無電に接し小名濱港内の漁船は大時化難破ケ所の未修繕の姿で出動して昨拾八日には水揚一萬貫の多數に及び近來にない活氣を見たが相場は従來石油箱一箱一圓八拾錢のものが九拾錢迄値下りした

磐城女學校にては來る二十日全校生徒に對する成績會議を開き二十三日には職員會を開くと

白米値下る

新米の出廻りで

既報平穀物検査所管内に於ける米價は本月初旬より諸物價騰貴に煽られ且つ水害に依る收穫減等の關係から連日高値を續けて居たが漸く新米の走りが市場に現れ始めたので昨十八日今日最初の値下りとして五等米一俵八圓六十五錢のものが八圓五十錢に十五錢の開きを見せた

罹災者

更正案

豊間村で協議

石城郡豊間村では二十日午前九時から村會を召集し颯風遭難者遺族の救濟方法、罹災漁業者の更生案並に匡修事業の設計變更を附

議する

櫻ヶ丘會報

昨日出來上る

校同窓會にては「櫻ヶ丘」會報を常磐毎日印刷株式會社にて印刷中の處昨日出來上つたので今日明日二千二百名の會員に發送す可く目下職員手合はして多忙を極めてある因に同誌は口繪寫眞二葉の外に母校や會員の消息及び名簿を全部登載し懇切な編輯振りには内容体載共に斯種雜誌中の白眉である

教育役員協議

石城教育會役員會は來る二十

四日午後一時より平第一小學校に於て開かれる

共濟病院見學

中學校第三學年生二百四十名は本日午後一時より本多高清水兩教諭に引率され南町磐城共濟病院を見學した

平町人專

回出生

△研町十當時石城郡好間村字向町田三六高野三郎氏三女美恵子
△鎌田町二六 鈴木四郎氏長女妙子
△榎樋小路二六 大須賀百世氏長男雅英

專門 内科一般

住宅診—内科は何でも診療致します
往診—呼吸器病ばかりではありません
平町南四六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋病 市原三三男

吉田眼科病院

平町南町、電話六八番

電池から火をハキ

フィルム引火

昨夕本町通りで

自動車火事を起す

乗客九名火傷

昨十八日午後五時二十分頃石城郡湯本町宇天玉崎鈴木自動車部鈴木稲實方運轉手古川三千彦(三)が助手高橋卯之助(一)と同乗乗客九名を

満載したフォード型第五二四號乗合自動車を運轉中平町から湯本町に向けて疾走中平町一丁目松崎自動車部前道路に差かかった際突如運轉臺附近のバッテリー線蓄電池から發火

た活動フィルム函十二巻ガソリンタンク等に引火して瞬時に運轉臺、客席に燃移り狼狽した運轉手古川助手高橋は車上から飛降りたが客席に詰め込められた身動きも出来なかつた乗客安齊ミイ(二)は頭部其他數ヶ所に全治

一週間の要する火傷を負ひ残り八名も全部全治一週間内外の火傷を負つた尙同所は平町目抜の大通りで附近には渡邊火藥店關彰油店等の危険物販賣店があり一時は非常な混亂を呈し

たが馳せ付けた消防組火防團員等が必死の活動を續けた結果同四十分該自動車を燃盡して鎮火した

火傷した

乗客

應急手當

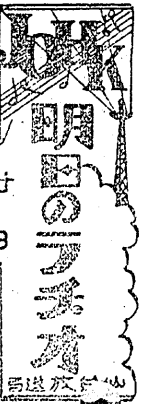
別項自動車火災椿亭の際火傷を負つた乗客は全治二週間内郷村大字宮平太郎居住

平館が損失を要求

自動車側では責任回避

原因嚴重取調

發火原因に就いては目下平署で運轉手古川三千彦(三)助手高橋卯之助(一)の兩名を嚴重取調中であるが損害を嚴重取調中であるが損害は乗客平館々員阿部秋直(四)が湯本町三函座まで運搬すべく積込んであつた日活フィルム「春秋上州路」米國ユニ社フィルム「怪人の襲撃」合計十二巻焼失三千



今晩は北西の風晴
明日は北東の風晴

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間)
ハルモニカ獨奏及指揮川口章吾合奏川口ハルモニカ合奏曲
後七、三〇 産業ニュース

後八、〇〇 ピアノ獨奏レオソロタ
後八、三〇 哥澤唱哥澤芝靜三味線哥澤芝香
後八、五〇 連續講談羽子板娘(第一)席大島伯鶴

後九、三〇 時報 全國ニュース氣象通報番隊告

後五、〇〇 受驗講座 漢文塚本哲三
後六、〇〇(子供の時間) お伽漫談「年の暮」山野一郎
後七、三〇 講演
後八、〇〇 放送舞臺劇「江戸生艶氣輝煌」日比谷公會堂三津五郎舞踊會より中繼
後八、五〇 連續講談「羽子板娘」(第二)席大島伯鶴
後九、三一 滿洲より

乗客を捨て、運轉手逃げ出す

無責任さ各方面から非難

平地方の自動車業者が書入時に入つて俄然猛烈な客貨の争奪戦を展開してゐる折柄昨十八日夕刻の自動車火事で遂に乗客九名の負傷者を出すの椿事を惹起するに至つたが該自動車の乗客定員五名で約倍數の乗客がギッシリ詰め込まれてゐた爲め椿事直後に脱出困難に陥り斯くも多數の負傷を出すに至つたもので乗客を構はずに降りた運轉手助手の無責任さと共に鈴木自動車部の態度は各方面から非難されてゐる

合同新年俳句

夏行吟社好問村十好會、内郷村如青吟社合同新年俳句會は明春一月二日午後一時より平町炭屋旅館にて行はれるが獅子舞二句と會費三十錢で一般の來會を歓迎すると

横領収入役收監

任期中にゴマ化し通し

双葉郡長塚村大字寺澤字南迫百六十番地同村収入役柳井晋芳(〇)は過般來平檢事局に於て背任罪として上田檢事の取調べを取つてゐたが本日起訴確定平刑務所に收容されたが柳井は去大正十四年三月前役入役堀川島次郎より事務引継ぎの際公金九百三十圓の不足を發見し

明日の部

前九、二〇 料理献立 クリスマス折衷献立小野玉枝
前一〇、三〇 婦人講座 「女の立場」村岡花子
後一〇、五〇 和洋合奏 中村美秋外
後二、〇〇 家庭大學講座 早大教授本間久雄

第二珠算競技

平第二小學校にては来る二十一日午前十時より珠算競技會を開催すると

磐中校長出縣

中學校長橋本文壽氏は今朝平發五時四十分にて事務打合せのため縣廳へ出向いた

同情金

五百四十圓集る

近く分配の協議

既報平町の同情週間中募集した貧困者救済資金は昨日清算せる處五百三十九圓十一錢に達したので近く共済委員は右配分法に就いて協議を行ふが救済される貧困者は六十餘名に及ぶ模様である

平裁判たより

石城郡勿來町宇九面漁夫渡邊寅松(三)は去月二十三日同町渡邊金作所有の幸勝丸に船長として乗込み禁止區域なる茨城縣平磯町沖合に於て底曳網漁業をなし機船底曳網漁業取續規則違反として罰金四十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

- △女中 二十五迄 尋卒 給料面談(植田町某)
- △子守 十七才 尋卒 三圓位(平町某)
- △出前持 二十以下 尋卒 月四五圓(平町某カフエ)
- △回職を求める方
- △炊事夫 六十五才 高卒 給料面談(平町某)
- △菓子工見習 十八才 高卒 給料面談(好問村某)
- △電工 二十三才 高卒 給料面談(好問村某)

善兵衛

【禁演上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百廿八席 平手造酒

かゝを貰つてくれ

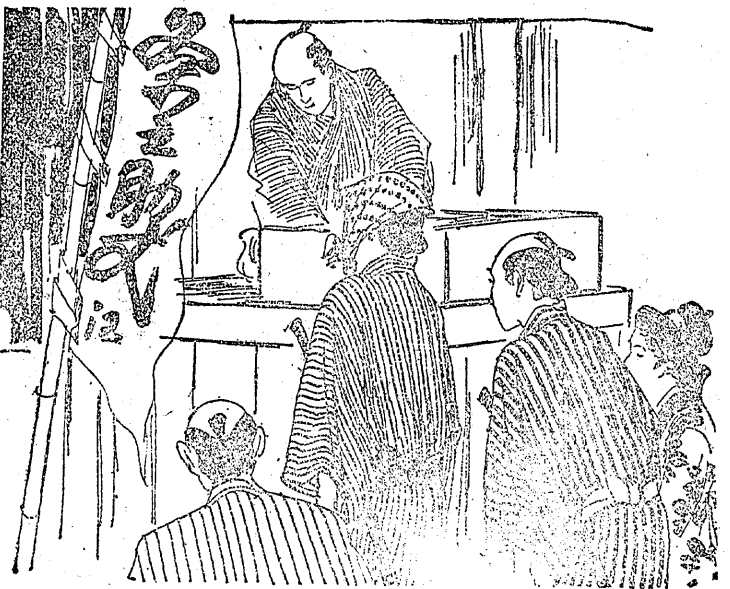
名主善兵衛は緋の勢力富五郎を隠してある米倉に來ると勢力は小見川の村吉を呼んでくれと頼まれたが百姓が鰻屋を呼ぶも訝しいハテ久うしたものかと考へてゐると富五郎が

勢「阿父さん彼奴は厄丁が利きますから客をするに就て料理を頼むとかう云つたら何んなものでせう」
善「ウムさうか、夫れではさうしよう」

勢「その使には茲にゐる榮助をやつてもようございませうが、此奴も私同様おたすね者で御座いますから、小見川に行く途中繩をかけられてた可愛相、それ故こちらから人を出して戴きたいものでせう」

善「ア承知した、夫れでは客をするに就き料理を頼むだから来てくれと云つて呼ぶ事にせう」

勢「どうぞお願ひ申しますソコで善兵衛が奉公人を小見川の村田屋吉五郎の許に出した、清瀧の椿善兵衛と云へば其名を知られた豪家何ぞ祝事でもあるのであらうと使と共に清瀧へ、事にした、此道程は五里餘り



夜に入り使は吉五郎を伴れて歸つて來た。
善「イヤ、大きに御苦勞、お前さんが村田屋吉五郎と云はつしやるは」
吉「左様でございます」
善「頼みたい事があるでな一寸、俺と一緒に來て下さ

はなからう、何んでこゝへ伴れて來たかと妙に感じたが善兵衛と共に入つた向ふの方に米が積んであつてその後に人がゐる、善兵衛の持つてゐた金網の行燈の灯で照し出されたのを見て吉五郎は吃驚した、その時それへ出て來たは富五郎
勢「村吉、久しく逢はなかつたな」
前名を呼ばれて吉五郎はホロ／＼涙を流し

吉「親分何うしました、お前さんは下總を立退いたと云ふものもあるし又この近所に隠れてゐるなどといふ者もあり、八州役人や目明

るが、婆に未練があつて隠れてゐる譯ではねえ何うか親分を成佛さして遣りてえさうするには助五郎を首にしなければならねえ、それで命を保つてゐる、卑怯な奴と笑ふな」
吉「何ういたしましてお前さんの氣性は知つて居ります、命惜さに逃げるやうな人ぢやねえ、繁藏親分は良

い兒分を持つて仕合せだ、定めし冥土で喜んでゐるでございませう」
勢「時に村吉、お主に頼むことがある、聞いてくれるか」
吉「私の身で出來ることなら、どんな事でも引受けま

す」
勢「お父さん何うぞお前さんも其處で私のいふことを聞いておくんない」
善「よし、俺は此處で聞いてゐる、してどんな事だ

い」

善兵衛が先に立つて米藏に來て
善「この中に入つてくらつせえ」
と云はれて吉五郎は變に思つた、料理を頼むならばこんな所へ伴れて來る必要

し又は助五郎の身内が御陣屋の役人と共にお前さんの行方を捜してゐます、何うしてこんな所にお出なさるか」
勢「イヤ、こゝは俺の婢アの實家だ、又さんのお蔭で今日まで命をつないでゐ

が吃驚して
と云はれて村吉の吉五郎

勢「どうぞお願ひ申しますソコで善兵衛が奉公人を小見川の村田屋吉五郎の許に出した、清瀧の椿善兵衛と云へば其名を知られた豪家何ぞ祝事でもあるのであらうと使と共に清瀧へ、事にした、此道程は五里餘り

勢「阿父さん彼奴は厄丁が利きますから客をするに就て料理を頼むとかう云つたら何んなものでせう」
善「ウムさうか、夫れではさうしよう」

勢「その使には茲にゐる榮助をやつてもようございませうが、此奴も私同様おたすね者で御座いますから、小見川に行く途中繩をかけられてた可愛相、それ故こちらから人を出して戴きたいものでせう」

勢「ア承知した、夫れでは客をするに就き料理を頼むだから来てくれと云つて呼ぶ事にせう」

勢「どうぞお願ひ申しますソコで善兵衛が奉公人を小見川の村田屋吉五郎の許に出した、清瀧の椿善兵衛と云へば其名を知られた豪家何ぞ祝事でもあるのであらうと使と共に清瀧へ、事にした、此道程は五里餘り

勢「阿父さん彼奴は厄丁が利きますから客をするに就て料理を頼むとかう云つたら何んなものでせう」
善「ウムさうか、夫れではさうしよう」

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町町 電話五一三番

玉屋洋品店

平町町 電話五六六番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

お醤油は

……ヤマフル。

醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋
合名會社

福島縣平町電話營業部二〇醸造工場
明治生命製糖代理店 山崎與三郎

高級貨切

不二タシク

電・32